

First Hit**End of Result Set**

L25: Entry 4 of 4

File: JPAB

Nov 26, 1980

PUB-NO: JP355151514A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 55151514 A

TITLE: REMEDY FOR WOUND AND HEMORRHOIDS

PUBN-DATE: November 26, 1980

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

YOKOYAMA, RYOICHI

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

YOKOYAMA RYOICHI

APPL-NO: JP54058019

APPL-DATE: May 14, 1979

INT-CL (IPC): A61K 35/00; A61K 35/00; A61K 33/18; A61K 33/18

## ABSTRACT:

PURPOSE: The title remedy, capable of showing antibacterial, antifungal, hemostatic, and analgesic actions, and comprising an iodinated peppermint oil.

CONSTITUTION: A remedy comprising an iodinated peppermint oil (P), e.g. obtained from Mentha arvensis L. var. piperascens Holmes or piperita L., usable as a solution, emulsion or ointment. The iodinated P is a red or dark brown viscous liquid prepared by reacting peppermint oil with iodine at 80°C or above. The peppermint oil is a water-insoluble natural essential oil obtained by steam distillation of leaves, flowers, and stalks of Mentha arvensis.

COPYRIGHT: (C)1980,JPO&amp;Japio

**End of Result Set**

Nov 26, 1980

PRIORITY-DATA: 1979JP-0058019 (May 14, 1979)

Clear

<input type="checkbox"/>	<u>JP 55151514 A</u>	November 26, 1980	000
<input type="checkbox"/>	JP 86009926 B	March 27, 1986	000

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 55151514A  
BASIC-ABSTRACT:

Drugs contg. iodinated peppermint oil (IPO) are new. By peppermint oil a water immiscible volatile oil is meant; distilled (steam distillation) from the leaves, flowers or stems of *Mentha piperita* or *M. arvensis*. Peppermint oil from *M. piperita* comprises menthol (49-68%) and menthone (9-12%), s.g. 0.901-0.912 (15 deg.C), refractive index 1.460-1.463 (20 deg.C), optical rotation -33 to -21 deg., ester menthol (3-21%). The oil from *M. arvensis* comprises menthol (69-81%) and menthone (21-30%)' specific gravity 0.899-0.902 (15 deg.C), refractive index 1.460-1.461 (20 deg.C)' optical rotation -40 to -24 deg.' ester menthol (4-15%). Iodination comprises slow addn. to peppermint oil (46.7% free menthol, 5.9% ester menthol) of I<sub>2</sub>, with warming or cooling with stirring (an exothermic reaction). The temp. was finally raised to 100 deg.C to yield a red brown oil, which was washed with aq. NaHCO<sub>3</sub> and water to yield iodinated peppermint oil as a viscous red brown oil. (alpha)D (+-) 0 deg. Refractive index 1.4836 (20 deg.C). S.g. 1.088 (15 deg.C).

The IPO may be formulated as liq. emulsions. In an example iodinated peppermint oil (10 g), vaseline (150 g) and lanolin (120 g) were mixed while heating to give an ointment.

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 55151514A  
EQUIVALENT-ABSTRACTS:

CPI-CODES: B04-B01C; B12-A01; B12-A02; B12-A07; B12-D01; B12-H04; B12-J04; D08-B09; D09-A01;

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—151514

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 K 35/00  
33/18

識別記号  
ACJ  
ADB  
ACJ  
ADB  
庁内整理番号  
6617—4C  
6617—4C  
6617—4C  
6617—4C

⑭ 公開 昭和55年(1980)11月26日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ きずおよび痔疾の治療剤

横浜市旭区小高町131番地

⑯ 特 願 昭54—58019

⑰ 出 願 人 横山良一

横浜市旭区小高町131番地

⑱ 出 願 昭54(1979)5月14日

⑲ 代 理 人 弁理士 保高春一

⑳ 発 明 者 横山良一

明 細 書

1. 発明の名称 きずおよび痔疾の治療剤

2. 特許請求の範囲

1. はつか油を沃薬化したものを含有するきずおよび痔疾の治療剤

3. 発明の詳細な説明

本発明ははつか油を沃薬化したものを含有する新規なきずおよび痔疾の治療剤に関するものである。

はつか油とは、メンタビベリタ(所謂西洋はつか)とメンタアルベンシス(日本はつか)の葉、花、茎を水蒸気蒸留してえられる水にとけぬ精油のことで、その性状は次表に示す如くである。

主 成 分

メンタビベリタ 総メントール(97~68%) メントン(9~12%)

比重(15℃) 屈折率(20℃) 旋光度  
0.901 1.460 -33°~-2°  
~0.912 ~1.463

エステルメントール(3~21%)

主 成 分

メンタアルベンシス 総メントール(69~81%) メントン(21~30%)

比重(15℃) 屈折率(20℃) 旋光度  
0.899 1.460 -40°~-28°  
~0.902 ~1.461

エステルメントール(4~15%)

また以上の精油からメントール即ちはつか脂を析出せしめた所屬はつか赤油(総メントール30~40%)およびこれを蒸留精製したはつか白油が本発明の原料としては最も適当であり、メンタビベリタよりもメンタアルベンシスが原料油として適している。はつか油は、従来香料並びに医薬品として用いられている。

本発明者は、はつか油を原料とする各種薬剤を多年に亘り研究したところ、はつか油の沃薬化物が強力な抗細菌、抗かびの作用を有するだけでなく、そのものを含有する液剤、エマルジョン、軟膏は、きず並びに痔疾の治療剤として、従来の市販医薬品に比較して後者の治療効果を有するだけでなく、止血効果、鎮痛効果を併せ持ち、塗布後

( 1 )

( 2 )

2～3分で痛みがやわらぎ、止血（きずの大小にもよるが）することが判った。また本薬剤をそのまま健康な皮膚に一ヶ月間塗布することにより、皮膚への影響をみたが、健康な皮膚は何等そこなわれないことも判明した。

この知見に基づいて本発明を完成したものである。

はつか油を殺菌医療用に用いた例で本発明に近い例はルゴール氏液であり、これは石炭酸、はつか油および沃素をグリセリンにとかしたものであり、これを傷腫膿炎に外用する。しかし、はつか油と沃素は、常温では反応がおそく単なる混合状のものである。

本発明に使用するはつか油の沃素化合物は、はつか油に沃素を加え、加温することにより容易に得られる。反応は温度をあげてゆくと、例えば30℃～60℃ではじまり激しく行われるから、少量の沃素を添加しながら、加温、水冷をくりかえし乍ら行い、最後に温度を80℃以上にあげて完了せしめる。この場合、僅かに沃化水素と水を遊離するから、

(3)

ら、水又はアルカリで洗浄精製することが好ましい。

生成した沃化物は赤褐色乃至黒褐色の粘稠な液体で、-20℃に冷却しても結晶が析出せず、また沸点は原料のはつか油より幾分低下（0.1 mm Hgで10～15℃）している。その物性の一例を示すと次の通りである。

外見、暗褐色の粘稠な液体

旋光度  $\pm 0^\circ$

屈折率 1.4836 (20℃)

比重 1.088 (15℃)

0.1 mm Hgにおける減圧蒸留

初留 47℃ 48～51℃ 10.0% 52℃ 10.0%

52～57℃ 11.5%

はつか油に比較して旋光度が失われ屈折率はより高く、比重もより大きく、沸点は幾らか低下している。

このものを各種のカビ、菌に対する抗カビ性、抗菌性を示すと次の通りである。表中－は菌が発育しないもの± ++ +++は発育程度を示し、増

(4)

地はペプトンツアベック pH 5.8、温度は27℃であつた。×は希釈倍数を示す。

菌 種 名	希釈 倍数	1	2	3	4	5	6	7
アスペルギラス ジャポニカス (Aspergillus japonicus) (黒麹カビ)	500×	-	-	-	-	-	-	-
	1000×	-	±	±	±	±	±	±
対 照		+	++	++	++	++	++	++
アスペルギラス フラベス (Aspergillus flavus) (黄カビ)	500×	-	-	-	-	-	-	-
	1000×	-	±	±	±	±	±	±
対 照		+	++	++	++	++	++	++
ペニシラム ルテウム (Penicillium luteum)	500×	-	-	-	-	-	-	-
	1000×	-	-	-	-	-	-	-
対 照		-	±	+	+	+	+	++
大 腸 菌	500×	-	-	-	-	-	-	-
	1000×	-	-	-	-	-	-	-
対 照		+	+	++	++	++	++	++

以上の結果から明らかなように本発明の沃素化合物は、強力な抗カビ性、抗菌性を有する。

本発明のきず並びに痔瘻治療剤の製法並びに実施例をあげると次の通りである。

はつか油（遊離メントール46.7%エステル）

(5)

ントール5.9%) 150gにおよ9の沃素を徐々加え温浴中で攪拌しつつ反応させると激しく反応はじまる。水冷と加熱をくり返し、最終的に温度を100℃まであげて反応を完結する。赤褐色油状物がえられる。この油状物を重曹水と水で洗浄し、170gの沃化物がえられた。はつか様の香気をもつ粘稠な赤褐色の液体であつた。

実施例 1

上記のものを 10g

黄色ワセリン 150g

ラノリン 120g

加熱混合した微褐色軟膏を切傷につけて治療効果を見るとその効果は顯著であり特にその止血作用と鎮痛作用がきわだつていた。

実施例 2

ラノリン 185g

ワセリン 150g

上記沃素化した

はつか油 20g

肝 油 15g

(6)

を加熱混合し痔疾治療用として試用したところ、  
その効果は実施例1のものと同様であつた。

特許出願人 横 山 良 一

代理人弁理士 保 高 春 一

( 7 )